

第110回 北海道整形外科外傷研究会

平成16年 8月28日 札幌市教育文化会館
出席者 84名

主題：整形外科外傷における最小侵襲手術

会長 札幌医科大学 救急集中治療部 土田 芳彦

第110回北海道整形外科外傷研究会を開催して

2004年 8月、札幌教育文化会館にて第110回北海道整形外科外傷研究会が開催されました。例年並の参加者数で活発な討論が行われました。改めてお礼を申し上げます。

さて今回の主題は外傷における最小侵襲手術でしたが、救急部に所属している医師が会長ならば「多発外傷」であるとか「開放骨折」であるとか、いかにも急性期傷病が主題となるのではないかと想像されたかと思います。「最小侵襲手術」なるものは急性期傷病治療の対極に位置するものと考えられるかもしれませんが。しかし、多発外傷であるから、全身状態が不安定であるからこそ、「最小侵襲手術」が必要なのです。生命を救うとともに、高度な最小侵襲手術で最大の機能再建を心がけるべきと考えます。

今まで、多くの先輩・後輩の整形外科医と話をしてまいりましたが、患者の損傷状態が激しくなればなるほど、その治療は丁寧さを欠き大雑把になる傾向にあります。損傷が多様で困難であるので、もっとも綿密な計画により丁寧かつ迅速な治療手技が求められるべきなのではないでしょうか。

さて、「最小侵襲手術」が主題でしたが、本当の意味での biological な演題は残念ながら少なかったように思います。まだ発展段階の分野ですので、将来に期待するというので、またいつの日か「最小侵襲手術」を主題に研究会が開催されることを希望いたします。

一方、教育研修講演は AO Japan Chapter の会長である、君津中央病院の田中正先生にお願いいたしました。AO 法は最も理論的で biological な骨折治療を構築している団体であります。田中先生の講演は大変わかりやすく、講演に自然と引き込まれるすばらしいものでした。改めて御礼を申し上げたいと思います。

「整形外科外傷治療」は紛れもなく整形外科の subspeciality であり、「手の外科」「脊椎外科」などと並ぶものであります。多くの整形外科医が誇りを持って、高いレベルの外傷治療に従事していただきたいと思います。